



親孝行娘・せんの伝承

久住小児童が読み聞かせ

頌徳祭 長く続けるため活動広がる

孝女せんについて紹介する紙芝居を読む久住小6年生。竹田市久住町久住



6年生が下級生に

PTAも新たに協力

【竹田】竹田市久住町に伝わる親孝行娘・せんの遺徳をしのぶ頌徳祭が15日、同町久住にあるせんの墓などであった。近くの久住小児童が参加。6年生が初めて下級生に紙芝居を読み聞かせるなど、活動が広がりを見せた。

江戸時代、農家の娘せんは病気の父母を支え、コンニャクを作って売るなどしながら看病を続けた。同町は当時、熊本藩で親孝行をする姿が4代藩主細川宣紀の目に留まり、米や着物を与えられたと伝わる。

頌徳祭は地元有志でつくる「久住さやか」利活用実行委員会が墓を見つけたことを機に2021年、約50年ぶりに復活させた。これまで実行委がせんを見童に紹介してきたが、今回は伝承活動を長く続けようと同小PTAに協力を打診。PTA有志による墓周辺の草刈りなど、新たな取り組みが始まった。

この日は同小で6年生9人が5年生7人に紙芝居を



(指原祐輔)

活動が大きくなり、うれしい」と喜んだ。

読み聞かせた。「身を尽くして父母を養った」と、せんの孝行を伝えた。6年の大塚喜輝さん(11)顔写真上は「練習の成果を出せた。後輩たちも紙芝居を読む活動を続けてほしい」と話した。

この後、5年生は墓に移動。花や線香を供え、手を合わせ、一人ずつ「親孝行をたくさんしようと思った」などの感想を述べた。

大塚智子PTA会長(46)は「せんさんを地域住民が知り、児童が地元の歴史に関心を持つ機会になれば」と話し、実行委の田北敏彦さん(69)は「児童間の継承、PTAの協力での活動が大きい」と喜んだ。



孝女せんの墓に花や線香を供える久住小児童



〔問①〕 記事の内容について、正しいものを以下のア～エの中から1つ選んでください。

ア 熊本藩主の細川宣紀は、せんが作ったこんにゃくの味を褒めて褒美を与えた。

イ 彼女の遺徳を偲ぶ頌徳祭が2021年に40年ぶりに行われた。

ウ 久住小学校の6年生が同じ小学校の5年生に対し紙芝居の読み聞かせを行なった。

エ 6年生が下級生にせんを伝える活動は、これまで毎年続けてきた取り組みである。

〔問②〕 この記事では、PTAの有志や小学校の児童による新たな取り組みが始まったことにも触れています。このように多くの地域住民が携わることのメリットは何でしょうか。記事を読み取って書いてください。

児童が活動に加わることにより、若い世代にも関心をもってもらえる。

参加する人数が増え、活動が大きくなることで地域の歴史が長く継承される。 など

〔問③〕 頌徳祭はさまざまな人がいろいろな形で携わって活動が行われました。それぞれがどのような役割を担ったかを記事を読みながらまとめてください。

久住さやか利活用実行委員会：頌徳祭を復活させ、PTAに協力を打診した。

久住小学校のPTAの人たち：せんの墓周辺の草刈りなどを行った。

久住小学校の6年生の生徒：紙芝居を通して下級生にせんの物語を伝えた。

久住小学校の5年生の生徒：紙芝居を見た後、墓参りをして花や線香を供えた。